

マレーシア八週目、モンスーンの時期が近づき、心なしか降水量が増えた気がする。ヘイズも最近は少なくなり、綺麗な青空の下、マレーシア特有の動植物を眺めながら歩いているだけで爽やかな気分になることができる。後は道端に散乱しているゴミが無ければ文句なしなのだが。

マレーシアでは路上や川に投げ捨てられるゴミが深刻な問題となっており、丁度先日の講義でもその理由と解決策について現地学生とディスカッションする機会があった。

マレーシアは消費社会だ。食堂で食べ物や飲み物の持ち帰りなどを頼むともれなくビニール袋がついてくるし、道端の屋台では使い捨てのカップや容器が多用されている。これら消耗品が食べ終わったあとそのまま投げ捨てられ、問題の原因となっている。

何故人々はゴミを投げ捨てるのかという理由について、ディスカッションでは「十分な教育を受けていない。」「道をゴミ箱だと思っている。」「移民が多い為に愛国心がない。」等根本的なマインドセットを問題視する意見が多く述べられていた。

私も原因は人々のマインドセットにあるという意見に賛成だが、それは教育ではなく寧ろ都市の環境にあると感じている。クアラルンプールではゴミが既に散乱しており、皆がそれを当たり前のように受け止めているように見える。毎日セントラル駅近くを流れる川のゴミが電車から見えるのだが、乗客の誰もそれを気にかけていない。既に異常が日常になっている。

こうしたマインドセットを変えるにはポスターといった草の根も必要だが、それより政府や企業といった組織から人々の利益へ繋がるよう働きかける事が効果的だと思う。

例えば再資源化可能な容器を政府の支援によって企業が販売、回収、リサイクルすれば、現状の半数がただ埋め立てするだけの処理となっている最終処理場の負担を減らせ、より少ない費用で処理が可能になるのではないだろうか。

マレーシアでは未だこういった環境問題が多く顕在化しており、同時にこれらはゴミ資源化ビジネスの市場と成りうる可能性を秘めているとも言える。小倉



電車より撮影。川幅が広いためゴミが小さく見えているが、ひと目でそれと分かるほどの量が日々川を流れている。

